2023.07.20(木)　釜石高生が杜陵高で復興防災授業【盛岡タイムス】

釜石高生が杜陵高で復興防災出前授業

幼い日の震災体験語る
命を守る3カ条も伝授

盛岡市上田の杜陵高（三田正巳校長、定時制97人、通信制165人）で14日、釜石高生徒会（金野怜佳生徒会長）による「復興防災出前授業」があった。定時制3年次の生徒約30人が参加し、沿岸地域の高校生から災害時の備えや心構えを学んだ。

避難所での行動について意見を交わす杜陵高と釜石高の生徒

同校を訪れたのは、釜石高生徒会の2、3年生11人。幼い日の東日本大震災の体験を語り、いま高校生として取り組んでいる防災出前授業などへの思いを語った。

釜石高は2020年度、生徒会が中心になり「メッセージ・プロジェクト」を発足。児童生徒らへの出前講座を通して防災意識を高め、後世に語り継ぐ活動をしている。

杜陵高での授業は初めて。アイスブレイクで緊張を解きほぐした後、「感謝・記録・希望」をキーワードにする本プロジェクトについて紹介した。津波体験談では、避難所で配られたダンボールを仕切りにして使ったことや入学予定の小学校が被災し、仮設住宅から仮設校舎に通った経験などを伝えた。

「がれきだらけの中でも親が仕事に行き始め、復興していく過程が印象に残っている」と振り返った生徒たち。命を守る3カ条として「想定にとらわれない」「置かれた状況で最善を尽くせ」「率先避難者たれ」を挙げた。

三つ目については、自分が率先して逃げることで、高齢者ら周りの人への「津波がくるかもしれない」という意識づけになると強調した。

「釜高式クロスロードゲーム」では、「自分が避難所に持ち込んだ食料を他人に分けるかなど避難所生活で起こり得る状況を挙げ、自分だったらどのような行動を取るか、グループごとに意見を交わしながらじっくりと考えた。

杜陵高の平野天音生徒会長（定時制3年次）は「震災時は盛岡にいたが、幼い頃の体験は釜石高の皆さんと重なる部分もあり、ためになる話が多かった。『命を守る3カ条』は心しておきたい」と表情を引き締めた。

釜石高の金野生徒会長（3年）は「楽しみながら防災意識を高めてもらおうというプログラム。杜陵高の皆さんが積極的に参加してくれてうれしかった。誰もが、いつ災害に遭うか分からないので、心に留めておいてくれれば」と話していた。

20年度に釜石の副校長だった三田杜陵高校長は「本校の生徒は内陸の生徒が多く、震災から12年たって記憶も定かではない部分も出てきていると思う。同じ高校生の言葉を受け取ることで、防災意識につなげていってほしい」と話していた。

※　盛岡タイムス 2023 年 7 月 20 日付　この記事は盛岡タイムス社の許諾を得て転載しています。